

Development of a new risk assesment scale for predicting pressure ulcers in an intensive care unit

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Suryedi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/19500


博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1897 号

学籍番号 _____

氏 名 スリアディ

論文審査員

主 査 (教授) 稲垣 美智子 

副 査 (教授) 須釜 淳子 

副 査 (教授) 城戸 照彦 

論文題名 Development of a new risk assessment scale for predicting pressure ulcers in an intensive care unit.

論文審査結果

論文内容の要旨

本研究は、インドネシアの ICU における褥瘡発生予測スケールとして the Suriadi and Sanada (S.S.)scale を開発し、その予測妥当性を検証した。S.S. scale は体圧、体温、喫煙の 3 項目から構成され、各項目は“リスクあり”または“リスクなし”の 2 つのいずれかで回答する褥瘡発生予測尺度である。

研究デザインは、前向きコホート研究で、インドネシア Pontianak 地区にある 2 病院の ICU で調査した。その結果、項目のオッズ比は、体圧 2.2、体温 2.0、喫煙 1.6 であり、S.S.スケールの褥瘡発生分離値は 4 点(感度 81%、特異度 83%、PPV65%、NPV91%)、ROC 曲線下面積は 0.888(95%CI: 0.84-0.93)を得た。ROC 曲線下面積は 0.888 であったことから、S.S.スケールの予測妥当性が高いと判断できる。またこの結果は、既存の ICU 入室患者用褥瘡発生予測スケールの結果と比較しても予測妥当性が高い。体圧、体温、喫煙の 3 項目より構成されたこの S.S.スケールは褥瘡発生危険度の高い ICU 入室患者を判別でき、インドネシアにおける ICU 入室患者の褥瘡発生予測スケールとして妥当であると結論付けられた。

審査結果の要旨

本研究は、インドネシアの ICU における褥瘡発生予測スケールを開発し妥当性を検証した。3 項目からなる本スケールは、既存のスケールに比較し簡便性に優れており、褥瘡予測および、褥瘡予防対策に大きな影響を与える点で高く評価される。本研究における結果は、今後の褥瘡発生予測スケールの簡便化や、アジアにおける褥瘡発生危険因子の特定など、褥瘡ケア開発に大きく貢献する可能性を含んでいると評価した。よって本論文は看護学の発展に寄与するものであり、博士論文としてふさわしく博士(保健学)の学位授与に値すると判定する。